

ワークシート（第12章 EPISODE）

EPISODE 12-1

● みんなをイライラさせる行動をとるhくん

小学2年生のクラスでは、最近みんなのイライラが募っています。最近宿題の回収用にと設置した机の上のプリントを、hくんが毎回ぐちゃぐちゃにしてしまうからです。宿題の回収がやりやすいようにとみんな考えて設置した机で、他のみんなはちゃんと提出しています。hくんの行動を不満に思う児童は多く、「そんなことしないで」と直接声をかける子もいますが、hくんは耳を貸しません。

hくんはいつもみんなをイライラさせるような行動をとるわけではなく、嫌がらせをしようとしているわけではなさそうです。休み時間の様子などを見ていると、少し融通が効きにくいところがありますが、クラスで流行っている遊びを他の児童と楽しんでいるような様子も見られます。また、提出場所のプリントは散らかしてしまいましたが、自分の手元で管理しているプリントはきれいにファイルに入れており、自分の机周りもきれいに整っています。担任はクラスのイライラを収めるにはどうしたらいいか、悩んでいます。

EPISODE 12-2

● 授業に集中できないのはなぜ？

生徒指導部会のなかで、「クラスで、2人の生徒が授業中にちょっかいを出しあって、授業が中断してしまったり、そのことによって他の生徒たちの不満が高まったりしている」という中学1年生の担任の先生の悩みが共有されました。2人のうち一方の生徒iくんは、小学校からの情報として、読み書きに困難があるのではないかという懸念が示されており、もう一方の生徒jくんは、中学校に入ってから学習についていけず、保護者がスクールカウンセラーに何度か相談をもちかけているという経緯がありました。両者とも、なぜ授業に集中できない状況があるのかという背景に、学習の困難があるのではないかと考えられました。そこで、まずはすでに相談を受けているjくんの母親に対して、学校と連携しているクリニックで認知特性の検査をしてみないかという提案を、担任から行うことにしました。

jくんは早速、母親に連れられてクリニックに行きました。その結果、視覚的な困難によって教科書の文字情報に注意を向けることが難しいことがわかり、中学に入って教科書を多く用いるようになったことや、教科書に文字が細かくたくさん書かれていることが、学習の困難に結びついている可能性があること、医師からの指摘を受けました。

一方、母親が面談に乗り気でないiくんについては、読み書きの困難を指摘した小学校の先生や現在の担任から詳しく聞き取りをし、特別支援教育担当教員やスクールカウンセラーも交えて情報を整理した結果、ノートや作文にうまく文字が書けていなかったり、音読の際に正しく読み上げられなかったりするという行動特徴があり、文字の形を把握しやすくする支援が必要だろうという結論に至りました。

2人の特性はそれぞれ異なりますが、教科書が用いにくいというところで共通していたことから、先生から2人に、デジタル教科書を利用してみることを提案したところ、目新しさもあって2人とも乗り気でした。また、家庭だけでなく授業中にも

デジタル教科書が利用できたほうがよいことから、iくん、jくんそれぞれに対し、クラスの皆にも文字が読み取りにくいことを知ってもらうことを提案したところ、2人とも問題ないと回答し、担任からクラス全体に説明することになりました。

学びの遅れはあり、勉強への苦手意識はまだまだ残りますが、デジタル教科書の導入後、2人は他のクラスメイトと一緒に落ち着いて授業に取り組むようになりました。また、2人は授業中にちょっかいを出しあうだけの関係でしたが、休み時間などにも親密なやりとりをするようになりました。

●本章での学びを踏まえて、EPISODE 12-2 を次の視点で検討してみましょう。

- ① iくん、jくんの教育的ニーズが明らかになる過程についてそれぞれ整理してみましょう。
- ② iくん、jくんが落ち着いて授業に取り組むことができるようになったのはなぜでしょうか。

(記入欄)

- ① iくん、jくんの教育的ニーズが明らかになる過程についてそれぞれ整理してみましょう。

- ② iくん、jくんが落ち着いて授業に取り組むことができるようになったのはなぜでしょうか。

記入者名：

(日付： 年 月 日)